

令和7年度第1回学生と教員とのFD懇談会実施記録

期 日：令和7年7月31日（木）13：30から15：30

場 所：133教室（八木山キャンパス1号館3階）

出席者：学科から8名の学生、FD・IR企画部会委員から8名、
内部質保証推進委員から教職員4名、事務局

小林FD・IR企画部会委員長から、FD活動および学生FD懇談会の趣旨が説明され、学生には自由かつ率直な意見を述べてほしいと呼びかけ、懇談会が開会された。

今回はグループワーク形式を採用し、参加者をA・Bの2グループに分けて実施した。

[A グループ]

学生4名（電気電子工学科、情報通信工学科、都市工学課程、環境応用化学課程）および教職員5名

[B グループ]

学生4名（建築学科、産業デザイン学科、生活デザイン学科、経営デザイン学科）および教職員5名

テーマ：授業について

①共通学生調査の集計結果を閲覧して気になったことや要望等について

～グループワークに先立ち、大学企画室より調査集計結果について説明を行う～

○共通学生調査は設問数が多く、途中で疲れてしまい、正直なところ最後まで集中して答えるのが大変だった。

○アンケートは無記名だと説明されていても、教員に学生番号が分かるのではないかと思ってしまう、本音を書きにくかった。

○中間アンケートや期末アンケートに意見を書いても、その後どのように授業が改善されたのかわからず、書きっぱなしになっている印象があった。

○授業評価アンケートについて、回答率を強く求められると、内容を深く考えず形式的に答えてしまうことがあった。

○授業中やゼミの時間内にアンケートを実施してもらえると、落ち着いて回答できると思う。

○空きコマや授業の合間など、時間が確保されているときに実施してもらえると答えやすい。

②不適要件の変更（出席管理含む）について

○欠席回数が4回から3回になったことについては、特に大きな違和感はなく、ルールとして理解できている。

○「3回までは休んでも大丈夫」という感覚を持っている学生もいると思う。

○特別指導の仕組みや、誰に・どのように相談すればよいのかが正直よく分かっていない。

○体調が悪くても、欠席回数を気にして無理して出席してしまうことがあった。

○持病や通院がある場合、授業と重ならないように調整する負担が増えたと感じている。

○出席管理や評価の方法が、科目や教員によって違い、戸惑うことがある。

○てくポの操作ミスや反映漏れがあり、出席しているのに欠席扱いになったことがあった。

○制度が変更されたときは、学生向けにもう少し分かりやすく説明してほしい。

③受講モラルについて

○私語が多い授業では、内容が聞き取りづらく、集中できないとすることがある。

○うるさい学生がいる場合、教員にはある程度注意してほしいと思う。

○一方で、注意のたびに授業が止まると、真面目に聞いている側の集中が切れてしまうこともある。

○内職をしている人がいても、静かであれば自分はあまり気にならない。

○授業を受けるかどうかは学生自身の問題だと思っている。

○学生一人ひとりが、大学生としての受講姿勢を考える必要があると思う。

④授業の難易度・レベルの設定、習熟度別クラス等々について

○基礎科目（英語や数学など）は、高校内容の復習が多く、簡単すぎると感じることもある。

○一方で、1年生前期から専門的な内容が多く、説明が十分でないと感じる授業もある。

○習熟度別クラスは、理解度に合わせて学べる点で助かっている。

○同じ科目でも、クラスによって課題や加点の扱いが異なり、不公平を感じることもある。

○分からないことがあったとき、TA や学科サポートセンターに相談できるのは心強い。

○リフレクションや小テストがある授業は、理解度を確認できて良いと感じている。

⑤その他要望等

○教室によって Wi-Fi がつながりにくく、オンライン教材や専用ソフトを使う授業で困ることがある。

○Wi-Fi が使えないときに、個人のスマートフォンでテザリングして対応している学生もいる。

○ラウンジや共有スペースに、もう少し学修しやすい設備があるとありがたい。

○工場見学や実践的な体験、OB・OG の話を聞く機会があると、学修のモチベーションにつながる。

○授業の中で、学んでいる内容が将来どのような仕事に役立つのか教えてもらえると、やる気が出る。

最後に、渡邊学長より参加者への感謝を述べられた。工学部と建築・ライフデザイン学部の異なる視点を交えた初めてのグループワークにより、学生と教員が近い距離で率直に議論できた点に触れたほか、出席管理やアンケートは学びを支える手段であり目的ではないと確認したほか、科目の難易度に関する意見など、貴重な指摘を受けたことを取り上げた。今後は FD・IR 企画部会を中心にこれらの声を反映した改善策を進め、より良い大学を共に築いていこうと呼びかけ、閉会した。

